

学校だより



戸塚小だより

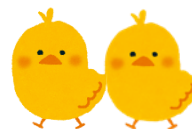
川口市立戸塚小学校
令和6年5月1日
電話048(295)1810
児童数 694名

笑顔いっぱい 夢いっぱい 未来へはばたけ戸塚っ子



お母さんだからだよ

校長 林 奈緒美



朝、元気な挨拶と笑顔をくれる子がいます。何より嬉しい一日の始まりです。ちょっぴり固い表情の子が、登校後に笑顔で過ごしているのを見かけるとほっとします。新年度が始まり一月、新しい環境にすぐに馴染んだ子も、まだまだ時間が必要な子も。子どもたちはそれぞれ、自分のペースで歩いていきます。自分づくり・自分磨きに向かいます。その子を思えばこそ、歩みの様子に不安や苛立ちを覚えてしまうことはあるもの。様々な思いを胸に、毎朝、明るくお子さんを送り出してくださっている保護者様を思います。

幼かった頃、我が家で鶏のひなが孵りました。当時、祭りの出店には、赤やピンクや黄色の「ひよこ」が売られていました。カラフルな色をしたふわふわのひなたちが、箱の中でひしめきあって鳴いているかわいらしさは、子供心をくすぐります。でも、買ってはもらえません。ですから、鶏を飼い始めた際は、ひよこの誕生が楽しみでなりません。ところが、やっと出会えた念願のひよこは、思い描いていた明るい色ではなく、地味な茶色の姿をしていました。出店のひよこたちが色づけされていたなんて夢にも思わなかった私にとって、本物のひよこの姿はちょっぴり残念に思えたものです。

とはいえ、やっぱりふわふわとかわいらしいひなたち。父は鶏小屋にひなだけが通れる狭い通路を取り付け、その先にひよこの遊び場をつくってくれました。私と姉が、遊び場にきたひよこをさわれるようにしてくれたのです。しかし、いくら待ってもひよこは通路を通りません。仕方なく、父は親鶏の目を盗んで一羽のひなを小屋から取り出して私たちに抱かせてくれました。初めて抱いたひよこは、見たとおりにふわふわで何とも言えない温かさがありました。両手でそっと包むようにして、その心地よい温かさを感じていました。その時、突然、けたたましい鳴き声が響いたのです。

見ると、ひよこの遊び場に親鶏がいて、仰向けになってもがいていました。小さなひよこの遊び場は、とても親鶏が入れる広さはありません。しかも、もっと狭い通路を通らなければ入れない場所です。身動きできない窮屈な場所でひっくり返り、狂ったようにもがき暴れている鶏…。私は何が何だか分からず、びっくりして言葉が出ませんでした。ただ、この鶏にとってとんでもないことが起きていることだけは感じることができました。

「返してあげよう。」

父は、私の手からひなを受け取り、鶏小屋に戻しました。そして訳が分からずに固まっている私に、「お母さんだからだよ。」と言いました。

大人になって分かること、気付くこと…。いつか、子どもたちもなんでもなかったように今を振り返り、「あの時は…」と笑って親御さんに話す日が来ることでしょう。